

5.13 景 観

5.13.1 現況調査

(1) 調査内容

事業計画地周辺における景観の状況を把握するため、現地調査を実施した。調査内容は表 5-13-1 に示すとおりである。

調査範囲は、事業計画及び周辺地形等の状況から、事業計画地を中心とする半径約 3 km の範囲とした。また、主要眺望地点から事業計画地方向の景観写真撮影(一眼レフデジタルカメラ、28mm レンズを使用)を実施した。

表 5-13-1 調査内容

調査対象項目	調査対象範囲・地点	調査対象期間	調査方法
地域の景観特性	事業計画地周辺地域	適 宜	現地踏査
主要眺望地点からの景観の状況	主要眺望地点 : 10 地点	平成 20 年 10 月 21 日 12 月 19 日	現地調査 主要眺望地点から事業 計画地方向の景観写真 撮影を実施

(2) 調査結果

地域景観の特性

「大阪市景観形成推進計画」(大阪市、平成 19 年 3 月)によると、事業計画地周辺は、「都市魅力景観形成地域」として位置づけられ、「これまでの景観施策を基本としながら、大阪らしい都市景観と景観の骨格の形成に向けて先導的な施策の展開を図る」とされている。

また、事業計画地周辺には大規模な業務施設、商業施設、宿泊施設等が多数立地した都市景観が形成されている。

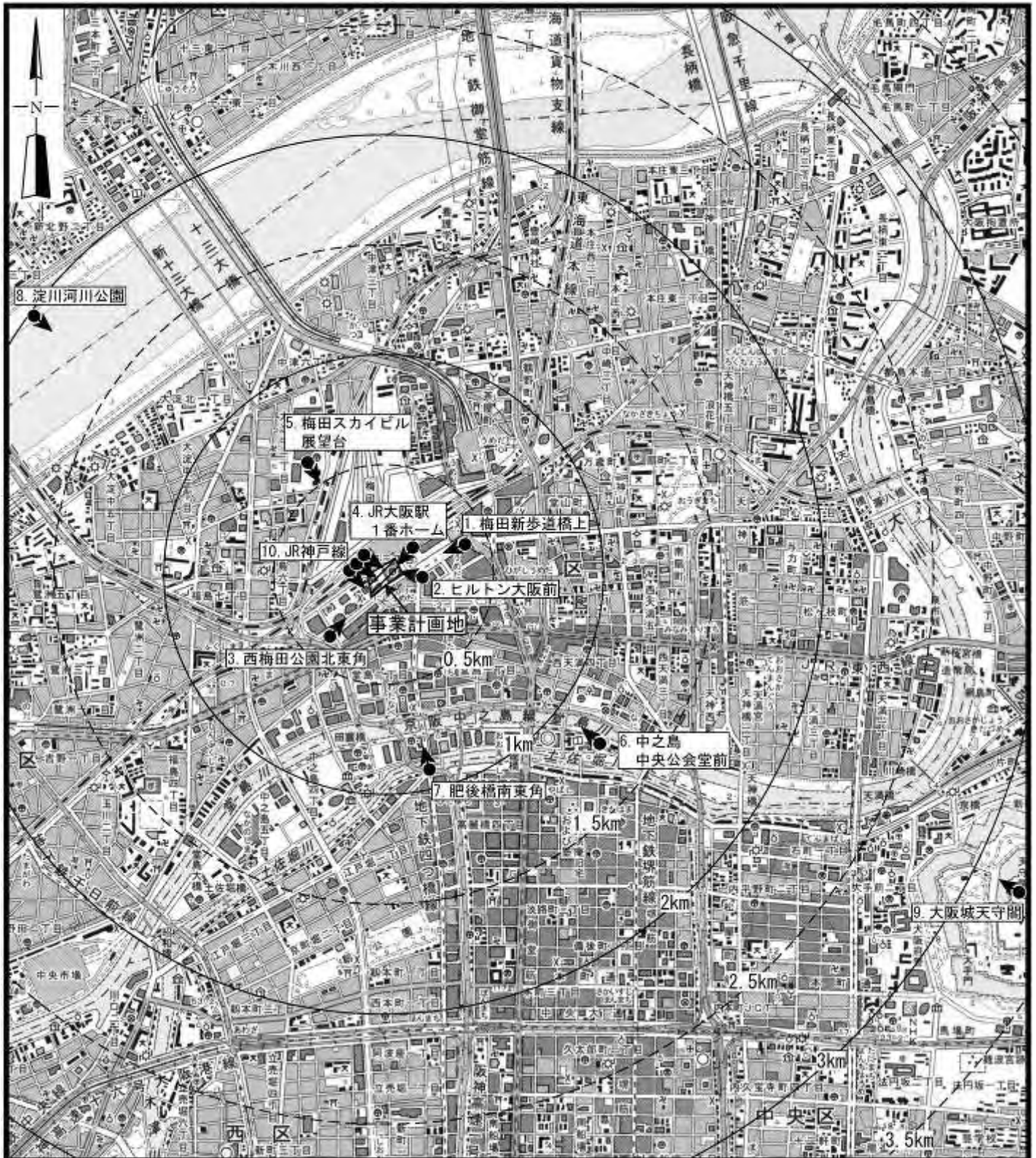
主要眺望地点からの景観の状況

各主要眺望地点からの景観の状況は表 5-13-2 に、主要眺望地点の位置は図 5-13-1(1)、(2)に示すとおりである。

なお、各主要眺望地点からの事業計画地方向の景観写真は図 5-13-2~11 に示すとおりである。

表 5-13-2 主要眺望地点からの景観の状況

区分	番号	地点名	方向	距離	状 況
近景域	1	梅田新上歩道橋	東	0.4km	梅田新歩道橋上からの景観であり、事業計画地を東側から眺望することができる。JR大阪駅前及び西梅田地区の高層ビル、道路等が主な景観の構成要素となっている。
	2	ヒルトン前	南東	0.2km	ヒルトン大阪前の交差点からの景観であり、事業計画地を南東側から間近で眺望することができる。道路、西梅田地区のビル等が主な景観の構成要素となっている。
	3	西梅田公園北東角	南西	0.4km	西梅田公園北東角からの景観であり、事業計画地を南西側から眺望することができる。西梅田地区の高層ビル及び道路等が主な景観の構成要素となっている。
	4	JR大阪駅1番ホーム	北東	0.1km	JR大阪駅1番ホームからの景観であり、事業計画地を北東側から眺望することができる。JR大阪駅のホーム、JR大阪駅前の建物及び西梅田地区の高層ビルが主な景観の構成要素となっている。
中景域	5	梅田スカイビル展望台	北北西	0.6km	事業計画地の北側にある梅田スカイビル展望台（地上約173m）からの景観であり、事業計画地全体を北側から眺望することができる。JR大阪駅前、西梅田地区の高層ビル及び線路等が主な景観の構成要素となっている。
	6	中之島中央公会堂前	南東	1.3km	中之島中央公会堂前の東洋陶磁美術館側からの景観である。現在は事業計画地を視認することはできない。中央公会堂をはじめ、堂島地区のビル、植栽の緑及び道路等が主な景観の構成要素となっている。
	7	肥後橋南東角	南	1.0km	肥後橋南東角からの景観である。現在は事業計画地を視認することはできない。四つ橋筋及び四つ橋筋両側に林立するビル等が主な景観の構成要素となっている。
	8	淀川河川公園	北西	2.0km	淀川河川公園の川縁からの景観であり、事業計画地を含む大阪梅田地区周辺のビル群を眺望することができる。淀川の水面、対岸の河川敷及び大阪梅田地区周辺のビル群等が主な景観の構成要素となっている。
遠景域	9	大阪城天守閣	南東	3.2km	大阪城天守閣（地上約50m）からの景観であり、事業計画地を含む大阪の市街地が一望できる。また、眼下に広がる大阪城公園の緑も景観の構成要素として加わっている。
車窓	10	JR神戸線	西	0.2km	JR神戸線を神戸方面から大阪方面へと走行する列車の車窓からの連続的な景観である。西梅田地区の高層ビル及び線路等が主な景観の構成要素となっている。



● : 景観調査地点

- | | | | | | |
|-------|----------------|-------|---------------|-------|-----------|
| 【近景域】 | 1. 梅田新歩道橋上 | 【中景域】 | 5. 梅田スカイビル展望台 | 【遠景域】 | 9. 大阪城天守閣 |
| | 2. ヒルトン大阪前 | | 6. 中之島中央公会堂前 | 【車窓】 | 10. JR神戸線 |
| | 3. 西梅田公園北東角 | | 7. 肥後橋南東角 | | |
| | 4. JR大阪駅 1番ホーム | | 8. 淀川河川公園 | | |

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。
(承認番号 平20近測 第 91号)

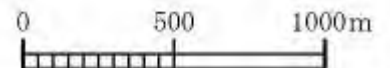


図 5-13-1(1) 主要眺望地点の位置

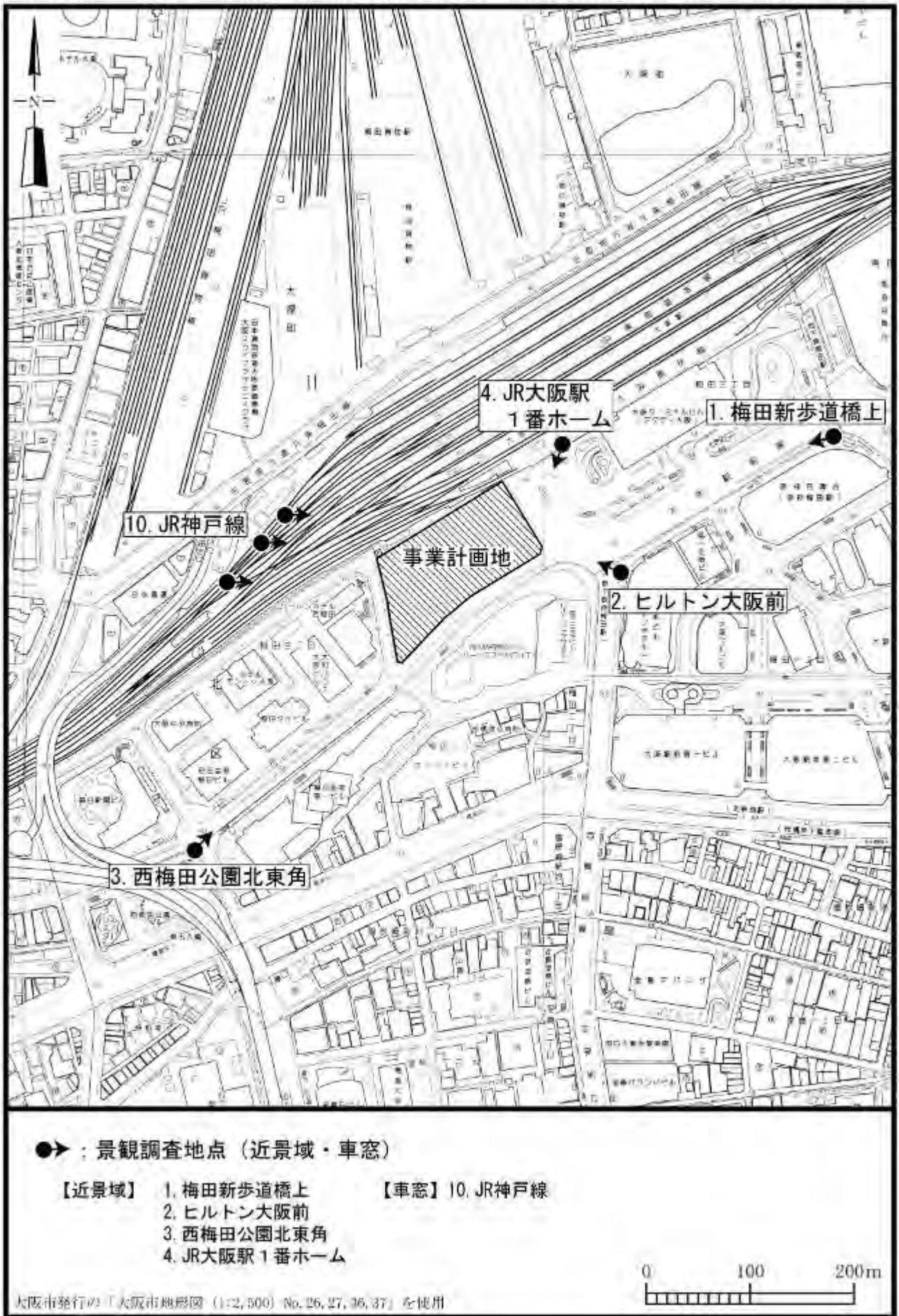


図 5-13-1(2) 主要眺望地点の位置 (近景域・車窓)

5.13. 2 施設の存在に伴う影響の予測・評価

(1) 予測内容

施設の存在に伴う影響として、建築物の出現が事業計画地周辺の景観に及ぼす影響について、現地調査結果及び事業計画等をもとに予測した。

予測内容は表 5-13-3 に示すとおりである。

主要眺望地点からの眺望の変化の程度については、建築物等の出現による景観の変化を視覚的にとらえるために、現況調査において選定した主要眺望地点 10 地点からの景観について、事業計画に基づき事業完了後のフォトモンタージュを作成し、予測した。

表 5-13-3 予測内容

予測項目	予測地点	予測時点	予測方法
建築物等の出現による主要眺望地点からの眺望の変化の程度	主要眺望地点 ：10 地点	施設完成後	フォトモンタージュ法により将来景観モンタージュを作成し予測

(2) 予測結果

各主要眺望地点からの、現況の景観写真、施設完成後の景観予測図及び景観の変化の程度は図 5-13-2～11 に示すとおりである。

なお、予測にあたっては、事業計画地近傍で現在建築中、または計画されている大規模建築物である大阪駅開発プロジェクト（大阪駅新北ビル工事、大阪駅新北ビル別棟駐車場、大阪駅改良工事、アクティ大阪増築工事）、梅田阪急ビル建替事業及び大阪駅北地区先行開発区域 A 地区開発事業・B 地区開発事業についても考慮し、それらの概ねのイメージを景観予測図に示した。ただし、大阪・中之島プロジェクトについては、東地区及び西地区の計画建物の竣工時期が異なることから景観予測図には反映していない。

【現況】



図 5-13-2(1) 梅田新歩道橋上からの景観（現況）

【施設完成後】



注：事業計画地東側に建築予定の大阪駅開発プロジェクト（本計画建物右手前）の概形も示した。

図 5-13-2(2) 梅田新歩道橋上からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	近景域
地点番号	1
地 点 名	梅田新歩道橋上
<p>施設完成後には、現在の大阪中央郵便局及び大弘ビルに替わって、計画建物の低層部、中層部及び高層部が視認されるようになる。</p> <p>中層部については、周辺の建物の中層部との高さとの調和を図るとともに、西梅田地区との連続性に配慮し、また建物の外壁面を現状よりも後退させオープンスペースを確保することによって、十分な緑化を行う計画である。</p> <p>また、建物の外装は、シンボリックで上昇感のある表現とし、新たなビジネスや賑わい、そして文化発信の拠点を創出することで良好な景観を形成する計画である。</p>	

【現 況】



図 5-13-3(1) ヒルトン大阪前からの景観（現況）

【施設完成後】



注：事業計画地の東側のトラベルコート(本計画建物の右側)は撤去される予定のため、撤去後の概形を示した。

図 5-13-3(2) ヒルトン大阪前からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	近景域
地点番号	2
地 点 名	ヒルトン大阪前
<p>施設完成後には、現在の大阪中央郵便局及び大弘ビルに替わって、計画建物の低層部及び中層部が視認されるようになる。</p> <p>中層部については、周辺の建物の中層部との高さとの調和を図るとともに、西梅田地区との連続性に配慮し、また建物の外壁面を現状よりも後退させオープンスペースを確保することによって、十分な緑化を行う計画である。</p> <p>また、建物の外装は、シンボリックで上昇感のある表現とし、新たなビジネスや賑わい、そして文化発信の拠点を創出することで良好な景観を形成する計画である。</p>	

【現 況】



図 5-13-4(1) 西梅田公園北東角からの景観（現況）

【施設完成後】



注：事業計画地東側に建築予定の大阪駅開発プロジェクト（本計画建物右手奥）の概形も示した。

図 5-13-4(2) 西梅田公園北東角からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

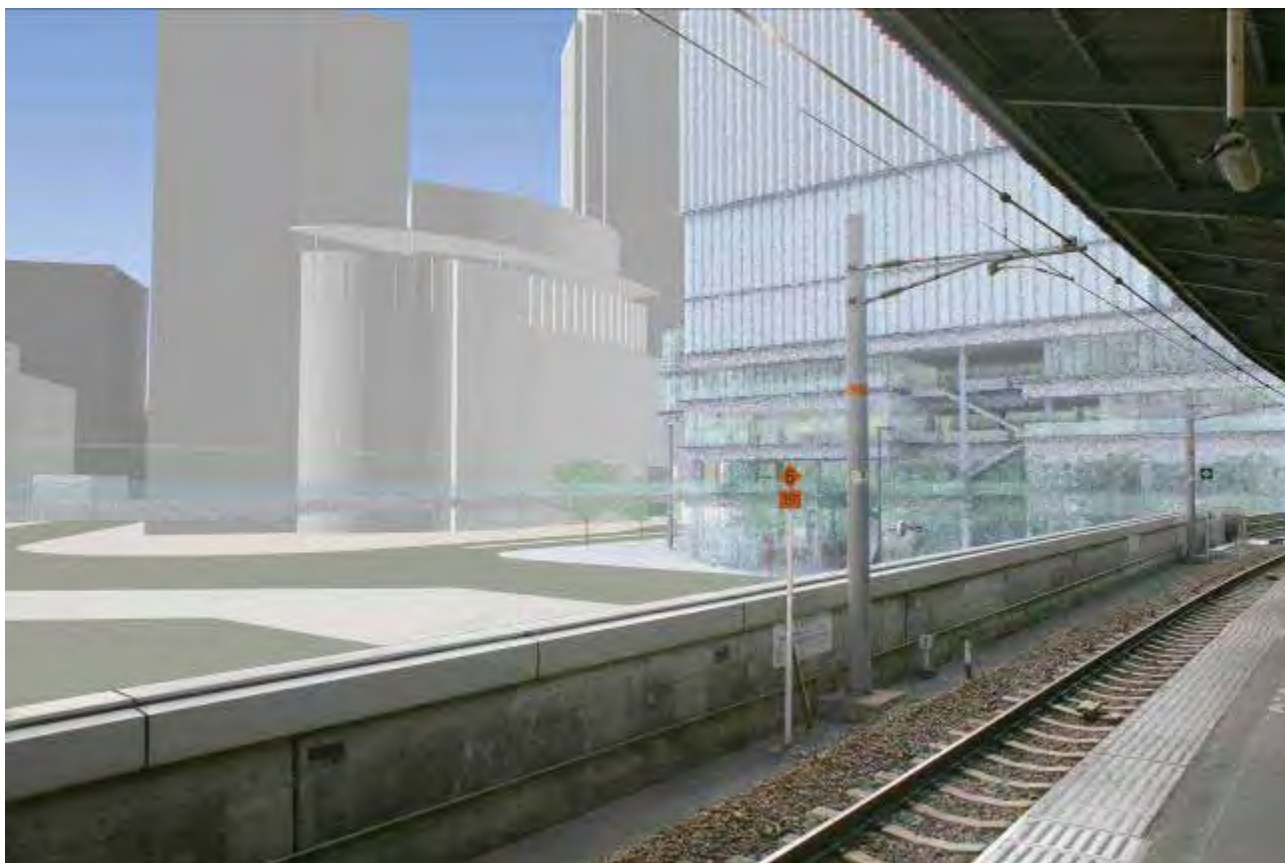
区 分	近景域
地点番号	3
地 点 名	西梅田公園北東角
施設完成後には、計画建物の南側壁面の一部が視認されるようになる。 西梅田地区には既に高層建築物が存在していること、計画建物については、西梅田地区との連続性に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。	

【現 況】



図 5-13-5(1) JR大阪駅1番ホームからの景観(現況)

【施設完成後】



注：事業計画地の東側のトラベルコート(本計画建物の左手前)は撤去される予定のため、撤去後の概形を示した。

図 5-13-5(2) JR大阪駅1番ホームからの景観(施設完成後)

【景観の変化の程度】

区 分	近景域
地点番号	4
地 点 名	J R大阪駅1番ホーム
施設完成後には、計画建物の低層部から中層部の東側壁面が視認されるようになる。計画建物については、西梅田地区との連続性に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。	

【現 況】



図 5-13-6(1) 梅田スカイビル展望台からの景観（現況）

【施設完成後】



注：事業計画地北側に建築予定の大阪駅開発プロジェクトの建物（本計画建物の左手前及び右手前）の概形も示した。

図 5-13-6(2) 梅田スカイビル展望台からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	中景域
地点番号	5
地 点 名	梅田スカイビル展望台
施設完成後には、計画建物の全体が視認されるようになる。 事業計画地周辺には既に高層建築物が存在していること、計画建物については周辺地区の街並みとの調和に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはない と予測された。	

【現況】



図 5-13-7(1) 中之島中央公会堂前からの景観（現況）

【施設完成後】



図 5-13-7(2) 中之島中央公会堂前からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	中景域
地点番号	6
地 点 名	中之島中央公会堂前
<p>施設完成後には、堂島地区のビル越しに計画建物の高層部の一部が視認されるようになる。</p> <p>事業計画地周辺には既に高層建築物が存在していること、計画建物については周辺地区の街並みとの調和に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。</p>	

【現 況】



図 5-13-8(1) 肥後橋南東角からの景観（現況）

【施設完成後】



注：大阪・中之島プロジェクト（写真手前の四つ橋筋を挟んだ東西の建物）については、東地区及び西地区の計画建物の竣工時期が異なることから反映していない。

図 5-13-8(2) 肥後橋南東角からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	中景域
地点番号	7
地 点 名	肥後橋南東角
<p>施設完成後には、四つ橋筋に面するビル越しに計画建物の高層部の一部が視認されるようになる。</p> <p>事業計画地周辺には既に高層建築物が存在していること、計画建物については周辺地区の街並みとの調和に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。</p>	

【現 況】



図 5-13-9(1) 淀川河川公園の景観（現況）

【施設完成後】



注：事業計画地北側に建築予定の大阪駅開発プロジェクト及び大阪駅北地区先行開発区域 A 地区開発事業・B 地区開発事業の建物（本計画建物の左手）の概形も示した。

図 5-13-9(2) 淀川河川公園からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	中景域
地点番号	8
地 点 名	淀川河川公園
<p>施設完成後には、大阪梅田地区の高層ビル群の中に計画建物の高層部が視認されるようになる。</p> <p>事業計画地周辺には既に高層建築物が存在していること、計画建物については、周辺地区の街並みとの調和に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。</p>	

【現 況】



図 5-13-10(1) 大阪城天守閣からの景観（現況）

【施設完成後】



注：事業計画地北側に建築予定の大阪駅開発プロジェクト及び大阪駅北地区先行開発区域 A 地区開発事業・B 地区開発事業の建物（本計画建物の右手）及び東側に建築予定の梅田阪急ビル建替事業の建物（本計画建物の右手）の概形も示した。

図 5-13-10(2) 大阪城天守閣からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	遠景域
地点番号	9
地 点 名	大阪城天守閣
<p>大阪城公園の緑地の向うに広がる市街地の一画に、計画建物の高層部の一部が視認されるようになる。</p> <p>周辺には大規模な建築物が分布していること、計画建物については、周辺と調和したものとする計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。</p>	

【現況】



図 5-13-11(1) JR神戸線からの景観（現況）

【施設完成後】



図 5-13-11(2) J R 神戸線からの景観（施設完成後）

【景観の変化の程度】

区 分	車窓
地点番号	10
地点名	J R 神戸線
<p>事業計画地北側を列車が通過する際に、既存建物に替わって計画建物が視認されるようになる。</p> <p>事業計画地周辺の J R 沿線には既に高層建築物が存在していること、計画建物は西梅田地区との連続性に配慮する計画であることから、車窓からの通過する際の景観として違和感を与えることはないと予測された。</p>	

(3) 評価

環境保全目標

景観についての環境保全目標は、「魅力ある都市景観の形成及び周辺都市景観との調和に配慮していること」、「大阪市都市景観条例等に基づく計画、施策等の推進に支障がないこと」とし、本事業の実施が事業計画地周辺の景観に及ぼす影響について、予測結果を環境保全目標に照らして評価した。

評価結果

事業計画地は、大阪市景観形成推進計画において「都市魅力景観形成地域」に含まれており、大阪駅周辺で開発が進み景観形成の重要性が高い地域であることから、計画建物の外観・色彩等については、周辺地域の既存建物と計画建物とが調和するように努める計画である。

また、既存の高層建物との関係に配慮し、計画建物の高層部を事業計画地の西側に配置することにより、大阪駅前広場に対する圧迫感の軽減に配慮する計画である。

予測結果によると、まず近景においては現在の大阪中央郵便局及び大弘ビルに替わって、計画建物の低層部及び中層部が視認されるようになるが、中層部については周辺の建物の中層部との高さとの調和を図るとともに、西梅田地区との連続性に配慮し、また建物の外壁面を現状よりも後退させオープンスペースを確保することによって、十分な緑化を行う計画である。また、建物の外装は、シンボリックで上昇感のある表現とし、大阪駅前にふさわしい新たなランドマークを形成するとともに、新たなビジネスや賑わい、そして文化発信の拠点を創出することで良好な景観を形成する計画である。次に中景と遠景においては事業計画地周辺には既に高層建築物が存在していること、計画建物については周辺地区の街並みとの調和に配慮する計画であることから、景観に違和感を与えることはないと予測された。

計画建物の外観、色彩等については、周辺地域の既存建物と計画建物とが調和するよう大規模建築物等の景観に関する協議について、大阪市担当部局と協議する計画である。

なお、日本郵政株式会社が大阪中央郵便局の建替えを検討するにあたって組成した『「大阪駅前にふさわしい景観形成・歴史継承のあり方」に関する検討委員会』の提言を踏まえ、現局舎の建築的特長を備えた一部を計画建物の低層部に移設し、計画建物と一体のものとして再生・活用を図る計画である。

以上のことから、魅力ある都市景観の形成及び周辺都市景観との調和に配慮しており、また、大阪市都市景観条例等に基づく計画、施策等の推進に支障がないよう計画していることから、環境保全目標を満足するものと評価する。